

教えて！
加藤先生



学びを生かす！ 道徳ノートの 効果的な活用方法

思考ツール として

右下のノートは、5年生のN君のノートです。N君のノートからは、彼の思考過程がよく分かります。1ページ目が「授業前」、2ページ目には「授業後」と書かれています。つまり、1時間の授業を通して、自分の思考がどのように変容しているかを比較し、自覚して書き分けているのです。

そして、感想として、「最初は……」「授業後は……」というように、具体的に個性ということに関してどのように自分自身の認識が変わったかをまとめています。

つまり、板書の丸写しや言われたことを書き留めるという記録ツールとしてだけでなく、自分自身の思考を深め広げるための思考ツールとしても活用しているわけです。

これからの「深く考え、議論する」道徳学習を進めるためには、このような準備運動がどうしても必要です。

思考の つながり

思考のつながりというのは、1時間単位で見取れるものと、複数時間の中で見えてくるものがあります。いずれにおいても、子どもたち一人ひとりの思考の流れを意識する必要があります。そうしないと、学習の蓄積が行われず、行き当たりばったりの指導になったり、必然性のない学習になったりしてしまいます。

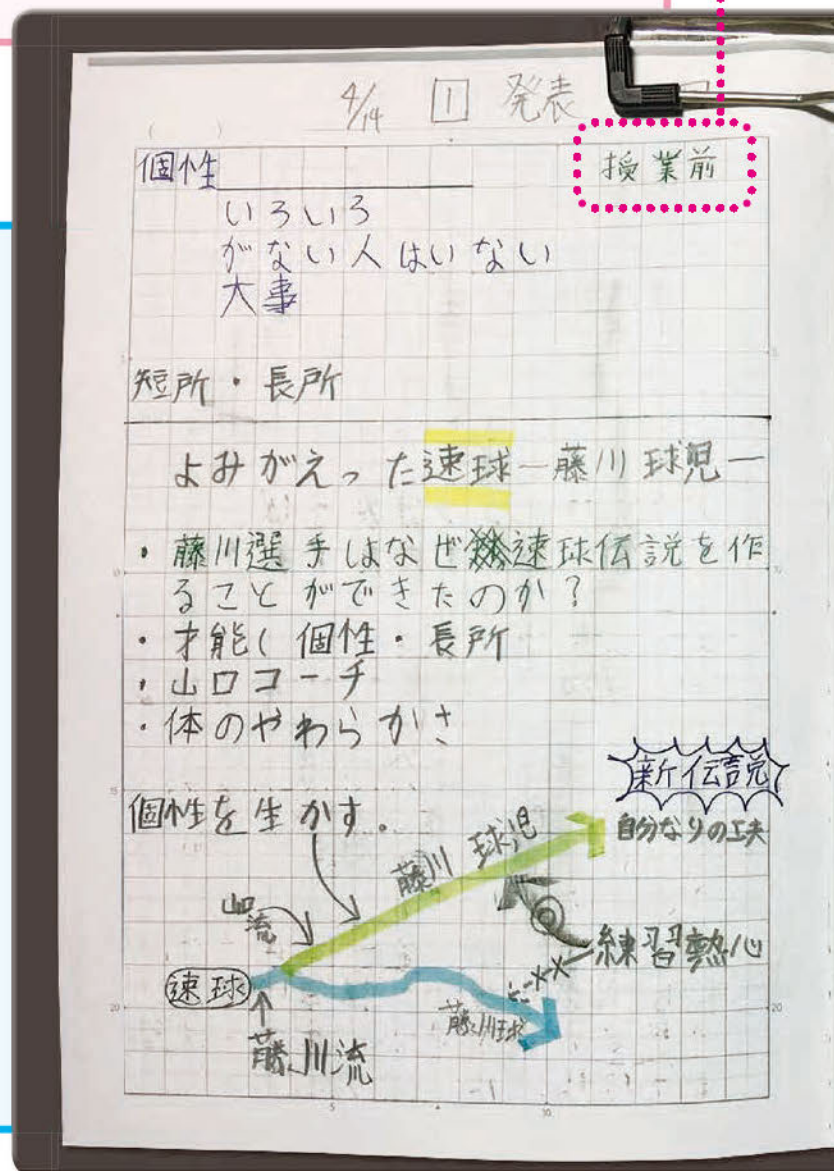
そして、そのような思考のつながりは、学習者本人が自覚できることが重要です。

▶何を学んだのか。

▶何が分かったのか。

を子どもたち自身にきちんととらえさせることによって、その学びは子どもたちに返り、定着します。

そのために必要なことが、「見える化」、つまり、道徳ノートにきちんとまとめさせることです。



秘伝！道徳授業ワンランクアップ術

教科としての道徳と道徳ノートの活用

教科として行われる道徳の授業では、次の2つをおさえる必要があります。

▶何を学んだのか。

▶学んだことがどのように(実生活で)生かされたか、あるいは生かされなかったか。(うまくいかない体験も貴重です。)

道徳ノートの活用によって、その2つを上手にすくい上げることができます。書くことによって本時の学びは定着されますし、授業後の意識の継続につながります。実際、家に帰って書き直したり、調べたり実行したりしたことを書き留めたりする子どもたちのノートは、授業と授業をつなぎ、思考を継続させる重要な思考ツールとなっています。

道徳ノート、それもなるべく自由度の高いノートづくりをさせることによって、学びが深まるのです。



発言を 保障する！

N君は「まとめ」と「感想」を書き分けています。これは指導者が指示したものではなく、本人が自分の判断でこのような書き分けをしているのです。

「まとめ」は授業中に生まれ、話し合いによって練り上げ結論として整理されたものであり、N君の発言ではありません。それに対して「感想」は、授業を受けてのN君自身の考えです。残念ながらその意見は、発言として授業中に生まれ出すことはありませんでした。N君は決して発言力がないわけではありませんが、時間的なものやタイミング的なもので発言しそびれたのかもしれない。

ノートに書かれた本人の考えを読み解くことによって、授業中の様子からだけでは判断できない子どもたち一人ひとりの思考活動が見えてきます。

これは、紛れもなくN君の「発言」です。ノートがなかったら、目の目を見ることのない発言になっていたかもしれません。

